

令和6年度 研究推進計画

教務部

1 研究主題

子どもを主語とした算数科の授業
～児童の学びをファシリテートする力の向上に向けて～

2 主題設定の理由

本校は昨年度、「自分の考えを分かりやすく説明できる児童の育成」を目指し、必然性のある学習活動の設定を工夫した授業づくりについて研究を進めてきた。研究の柱は、次の2点である。

- ①児童が「解いてみたい」「話してみたい」「聞いてみたい」と感じられるような課題や学習場面の設定・工夫
(日常生活との関連、単元ゴールの設定、学び方の選択等)
- ②算数の良さに気づき、分かりやすく説明できる授業づくり
(単元構想力 UP シートの活用、説明の仕方の指導、聞き手を育てる指導等)

これらの取組により、令和5年度三次市学力到達度検査では、算数科の通過率は75.1%(全国平均66.7%)であり、実施した全ての学年が全国平均を上回った。また、児童アンケートの結果は、全ての項目で年度当初より数値が上昇する結果であった。特に、「自分の意見を発表したい」「話す時相手を意識している」の項目は10p以上の向上が見られた。(表1)

以上のことから、必然性のある学習活動の設定により、児童が「解いてみたい。」という思いをもって課題解決に向かい、自分の意見を「話してみたい」と感じる事ができたと考える。自分の考えを分かりやすく説明できる児童の育成を目指した研究は一定の成果が見られたと捉えている。しかし、学校生活の中での児童実態からは、指示待ちの児童が多く、能動的に取り組む姿はあまり見られない実態があり、本校の課題だと捉えている。

令和3年1月に提言された、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、その冒頭で「一人一人の子供を主語にする学校教育」を目指すべきと強調されている。つまり、今までは「指導者の視点」で考えていた学校教育を、これからはもっと「学習者の視点」で考えようということである。この視点で本校の授業を振り返ってみると、まだまだ「指導者の視点」での授業実践であり、指導者がファシリテートする授業が実践できているとは言い難い現状である。これまでの指導者の視点での授業づくりによって、児童は言われたことはできるが、主体的で対話的な深い学びの実現には十分到達できていない。また、単元ゴールを設定し、単元を通して児童に身に付けさせたい力を明確にしても、それを指導者のみがイメージし児童と共有できていないため、児童は何のために学んでいるのかといった目的意識、さらに、身に付けた知識・技能を活用して思考、表現する力は十分ではない。実際、学力テストの結果においても、活用力には課題が見られる。児童がこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、指導者が児童の主体性を引き出す工夫をし、身に付けた知識・技能を活用することができる、生きて働く力の育成を実践していく必要がある。

そこで、令和6年度は、「子どもを主語とした算数科の授業」を研究主題とし、副題を「単元のゴールを明確にした授業づくり」と設定する。研究の柱は次の2点である。

- ①児童の学びをファシリテートする力の向上

・個別最適な学びと協働的な学び

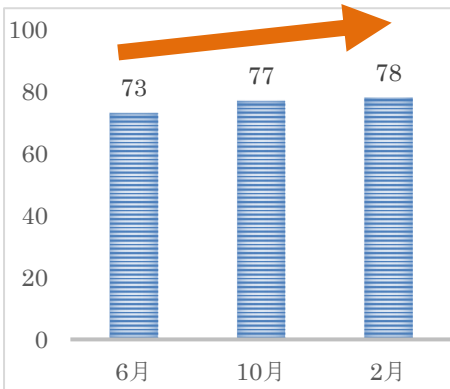
・対話と聞き手を育てる

②単元を構想する力の向上

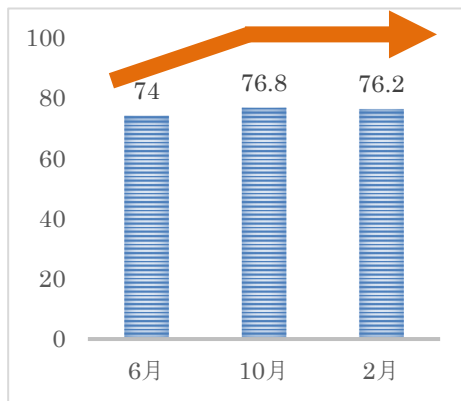
・活用する力

昨年度の研究の柱である「必然性のある学習活動の設定」、「話すこと」として定義した「『分かりやすく説明する』とは、算数用語を使って、図・表・式・グラフ・具体物等を活用して、指し示しながら、既習事項を踏まえて、相手を意識しながら説明する」ことの指導は継続させながら、本研究主題にせまっていくこととする。また、今年度指定を受けている「三次市読解力向上事業」での学びを活かして研究を進めていく。

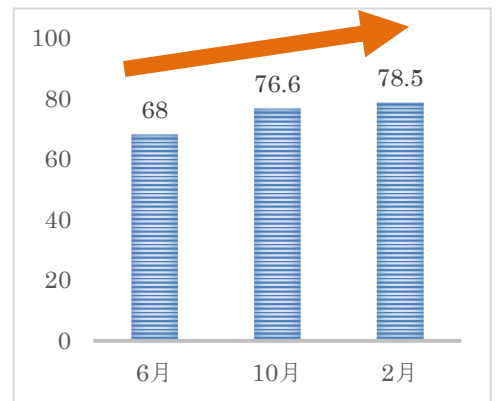
表1



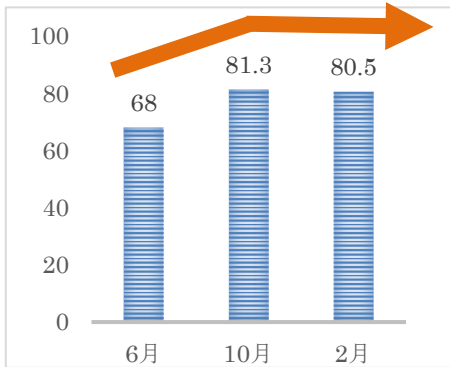
①算数の授業は楽しい。



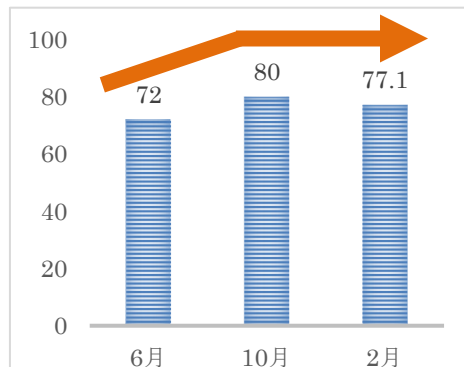
②算数が好き。



③自分の意見を発表したい。



④話す時相手を意識しています。



⑤話す時に図式答えを示しています。

3 研究仮説

単元ゴールの設定を通して児童が何をどう学ぶかを明確にし、教師がファシリテートする授業を工夫すれば、主体的に取り組み、知識技能を活用する力が育つのではないだろうか。

4 研究内容

子どもを主語とした算数科の授業を実現するために

- ①児童の学びをファシリテートする力の向上
 - ・個別最適な学びと協働的な学び
- ②単元を構想する力の向上
 - ・単元ゴールの設定
 - ・対話と聞き手を育てる

5 検証方法

- 算数科単元末テスト(思考・判断)
- 三次市学力到達度検査 算数の正答率
- 児童アンケート

6 検証の指標

- 算数科単元末テスト80点以上の児童の割合を70%以上にする。
- 三次市学力到達度検査 全国平均との差 +7ポイント
- 児童アンケート肯定的評価の割合が80%以上。

7 研究方法

(1)理論研修

- ・算数科における理論研修を行う。(4月～5月)

(2)児童の実態把握と分析

- ・算数科における児童の実態把握と意識調査を行う。(5月)

(3)中学校区小中合同研修会

- ・学区合同研修会を行い、小中一貫教育を更に深める。(5月)

(4)研究授業の実施と分析・考察

- ・研修内容の視点に沿った研究授業を実施し、研修を深め、研究の有効性を検証していく。

(5月～11月)

(5)研究のまとめと後期の研究推進の計画立案 (11月～2月)

- ・学力調査、単元末テスト、児童アンケートで児童の実態を調査し、研究の成果と課題をまとめる。

8 研修計画

| 月 | 内 容 | 学力調査等 |
|-----|--|---------------------|
| 4月 | 学校経営計画、研究推進計画提案、児童実態交流 | ※全国学力・学習状況調査 |
| 5月 | 「算数科」教材研究・事前研究「算数科」授業研究(・年) | ※総合質問紙調査 |
| 6月 | 「算数科」教材研究・事前研究「算数科」授業研究(・年) 総合質問紙調査分析 | ※「基礎・基本」児童 質問紙調査 |
| 7月 | 「算数科」教材研究・事前研究「算数科」授業研究(・年) 1学期学級経営まとめ、1学期研究の検証 | |
| 8月 | ※「全国学力・学習状況調査」分析 ※『広島県「基礎・基本」児童質問紙調査』分析 | |
| 9月 | 「算数科」教材研究・事前研究「算数科」授業研究(年) | |
| 10月 | 「算数科」教材研究・事前研究「算数科」授業研究(年) | |
| 11月 | 学区合同研修会(和田小学校) | |
| 12月 | 2学期学級経営まとめ、2学期研究の検証 | |
| 1月 | 研究のまとめ、次年度年間指導計画作成 | 三次市学力到達度検査 |
| 2月 | 三次市学力到達度検査結果分析 | |
| 3月 | 学級経営のまとめ、次年度研究推進計画の立案 | |